

原爆平和への誓い

埼玉県立熊谷高等学校

鈴木雄輝・井上晴太

本日は原爆死没者慰霊式典にお招きいただき誠にありがとうございます。そして、原子爆弾によって命を落とされた方々に深く哀悼の意を捧げます。

我々、熊谷高校の掲げる校訓のひとつに「自由と自治」というものがあります。自ら考え、行動する。与えられた自由の数だけ、責任がある。自らの考えで自らの選択をすることの大切さを説いており、熊高生はこれを胸に高校生活を送っています。先の大戦では、この自由と自治が拘束され、人々は自由な議論が抑制されました。その結果、国権の発動たる戦争に突入し、日本国民のみならず世界の人々に多大な惨禍をもたらす結果となりました。その戦争の最後に人類史上、初の核兵器が使用され、核の時代という不幸な時代が訪れたのでした。この自由と自治を不断の努力で守り高めてゆくことが戦争を抑止することだと考えています。

私達は、戦争経験者の生の声を聞くことのできる最後の世代です。8月6日、9日に広島、長崎で起こった悲劇を子どもたち、孫たちの世代へと脈々と受け継ぎながら伝えていかなくてはならないと思います。

今も世界では戦争や内戦が起こっており、命の危機に瀕している人々がいます。そして、最近ではロシアのプーチン大統領がウクライナ侵攻において核兵器の使用を示唆するなど時代に逆行する決して平和とはいえない状態が続いております。私達が生きるこの世界で核兵器が使われないようにする為には、世界の国々や国際機関、企業、個人が原子爆弾の悲惨さや核兵器のみならず、戦争そのものに対して反対という声をあげ続けることが大切だと思います。自由にもものが言える社会を守ること、これこそ自由と自治を校訓とする我々、熊高生の使命であることを確認し、自由な社会の維持に尽くすことをこの場を借りてお誓い申し上げます。